

平成 26 年 4 月 18 日

財団法人富山第一銀行奨学財団

理事長 金岡 純二 殿

助成研究成果概要報告書

教育機関名 : 富山大学	助成金額 : 750 千円	
研究代表者 : 大西宏治	所属 : 人文学部 人文学科	職位 : 准教授
研究題目 : 若者のまなざしからみる富山市の中心商店街		

【研究概要】

本研究の目的は富山市の中心商店街を過去から現在まで若者がどのように利用し、その利用の仕方がその後の中心市街地に対する地域イメージの形成にどのように影響したのかを検討することである。この目的を達成するために、富山市の中心市街地で若者時代、何らかの活動をした 35 名（男性：18 名、女性：17 名）に、初めて中心市街地に出かけたところから現在まで、中心市街地でどのようなことをし、まちに対してどのような印象をもっているのかインタビュー調査をした。このインフォーマントの年代は 10 歳代～60 歳代である。インタビュー調査に際しては、それぞれの年代が中心市街地で過ごした当時の様子がわかる住宅地図を用意し、その地図の上で、まちでの過ごし方や印象を回顧的に話してもらった。

50～60 歳代については、幼少期の商業を中心とする中心市街地に対するあこがれが強く、就職後も頻繁に出かけたという声や現在のように空き店舗が散見される街であってもそこを歩くことで思い出されるにぎわいがあり、現在でもあこがれの場所として継続していることをうかがわせるエピソードをいくつも得ることができた。

それに対して、現在の 30～40 歳代は 10～20 歳代のころに商店街で購買行動や友人同士で散策などをしており、そのころに楽しい場所であるというイメージを持つものの、自動車などで移動ができるようになる時期に富山市の郊外に大型商業施設が立地し、消費生活の中心がそちらにシフトする。また進学、就職で富山を離れ、一度、中心市街地に足を運ぶ機会がなくなる。しかしながら、彼らが何らかのきっかけで現在の富山市のまちなかを知る機会を得ると、様々なイベントが行われ、以前とは異なり、自分が参加して街を創造することができる楽しい場所であるとの認識が生まれ、再びまちに対するあこがれが生まれるものがほとんどであった。

それに対して現在の 20 歳代、10 歳代は過去のまちのにぎわいを知らずに育った世代であり、富山市中心は確かに中心商店街であるものの、日常的な購買行動

で必要とされるものは郊外のショッピングセンターに存在し、そちらへ強く興味をひかれるインフォーマントが増加する。しかしながら、この年代でもまちなかを知る機会やそこで何かの活動をする機会を得ると、その場所のユニークさに魅力を感じている。ただ、その魅力は毎日そこに出かけたくなるような魅力ではなく、そこにしかないものでたまに味わいたい魅力である。

このように各年代、中心市街地に対する印象は異なるものの、40歳代以下の比較的若い世代が魅力を感じるためには、自分たちがまちに接して、そこで何らかの活動をする機会が必要であることが示唆される。

現在の20歳代へは、現在、まちなかでどのようなイベントを繰り返し行っても、彼らの日常生活の中で生まれる消費の欲求に対して、郊外の大型ショッピングセンターに足を向けるのは取扱商品などの違いをみると理解できる。中心商店街に対して若い年代に憧れをもってもらうためには、今回のインタビュー調査で現れたような、中心市街地でのイベントやまちづくり活動と若い世代をいかに関わらせることができるか鍵になるのではないだろうか。

#### 【成果要約】

本研究の目的は富山市の中心商店街を過去から現在まで若者がどのように利用し、その利用の仕方がその後の中心市街地に対する現在の地域イメージの形成にどのように影響したのかを検討することである。この目的を達成するために、様々な世代の持つ中心商店街のイメージやそこでの体験を35名のインフォーマントに対してインタビュー調査をした。その結果、50歳代以上はにぎわっていた幼少期の商店街の体験を反映して、現在でも憧れを抱く場所になっている。それに対して10～40歳代は商店街でのイベントやまちづくり活動に関わる体験が、現在の商店街への評価に影響しており、その体験がないと中心商店街に魅力を見いだせないことが分かった。現在の若者世代の来街促進をするには、彼らが商店街の運営や中心市街地のまちづくりに関わる機会をいかに多く用意できるかにかかっているといえる。

(別添資料)

研究成果 発表状況	<p>現時点では特になし。</p> <p>2014年度日本地理教育学会(8/8~10)で研究発表を予定している。 加えて、2015年2月に富山まちなか研究室 MAG.net で予定している「まちなか研究発表大会」でも研究報告を行う予定である。</p> <p>また、2014年度秋季に発行される富山大学人文学部紀要に論文を投稿予定である。</p>		
経費の 執行状況	区分	執行額(円)	備考
	<b>【物品費】</b> ソフトウェア デジタルカメラ 文具類 書籍	63,800 25,421 6,289 4,990	
	<b>【旅費】</b> 富山大学ー総曲輪 富山ー東京(地図収 集・商店街視察)3 回 富山ー徳島・香川(商 店街視察)	13,480 152,560 57,190	
	<b>【謝金】</b> 統計データと調査結果の 整理	34,200	
	<b>【その他】</b> インタビュー調査運営委 託費 文献複写費	391,020 1,050	インタビュー調査委託は株式会社まちづくりとやまに委託し、インフォマントの選定、インタビュー会場の設置、インタビュー調査内容の記録、調査のお礼(QUOカード)の準備などを業務とした。